

1-2 各アレルギー疾患との関連が深い学校での活動の留意点

「1-1 各アレルギー疾患との関連が深い学校での活動」に掲載している表の中から、活動の留意点の一部を提示します。学校の実態に応じて参考にしながら活用するようにしましょう。

1 動物との接触を伴う活動

ウサギやトリなど、特定の動物がアレルゲンとなる場合、飼育係をさせない等の配慮をするようにしましょう。また、校外活動（社会見学や遠足等）等でも動物と接触する機会があるため、見学先に事前に確認したうえで、保護者・本人と面接し配慮するようにしましょう。

2 ダニ・ホコリの舞う環境での活動

ダニ・ホコリがアレルゲンとなる場合、ホコリが舞いにくいように掃除をしたり、マスクを着用したりする配慮が必要となります。ホコリっぽい環境（体育館や倉庫、マット運動、カーペット敷きの部屋、保健室のベッド等）を清潔に保つようにしましょう。

5 運動（体育・クラブ活動等）／6 プール

運動誘発アナフィラキシー、食物依存性運動誘発アナフィラキシー、運動誘発ぜん息の児童生徒は、体育や運動部活動、休み時間の遊びといった、運動による発症の可能性が高いため、十分注意する必要があります。例えば、給食・昼食後に運動する活動を避けることがあげられます。

また、アトピー性皮膚炎の場合、運動後に汗を拭き取ったり、プール後に十分シャワーで洗い流したりすることも大切です。

7 給食・昼食

給食当番の役割分担への配慮や、給食や他の児童生徒のお弁当に含まれるアレルゲンに触れないようにする必要があります。

8 食物・食材を扱う授業・活動

食物や食材を扱う学校行事や学習活動等（家庭科・生活科・理科・特別活動・総合的な学習（探究）の時間、クラブ活動等）を行う場合、食物アレルギー疾患を有する児童生徒に影響がないか、事前に検討するようにします。

もし、影響があると判断した場合には、学年主任や学級担任、教科担任が中心となって安

全を確保できる活動を検討したうえで、保護者・本人との面接などにより活動を実施するようにします。

また、活動を行うにあたりアレルギー疾患を有する児童生徒がいなくても、付近にアレルギー疾患を有する児童生徒がいなかったことを確認したうえで、活動を実施するようにします。

注意を要する活動（例）

アレルギー	配慮すべき教材・教具・活動
牛乳	牛乳パックのリサイクル活動、洗浄
小麦	粘土、うどん・パン作り体験
ソバ	ソバ打ち体験、ソバ殻の枕
ピーナッツ	豆まき、落花生の栽培

9 宿泊を伴う校外活動

アレルギー疾患を有する児童生徒が、可能な限り他の児童生徒と同等の活動が行えるように活動内容や利用施設などを検討する必要があります。

その際、保護者や主治医と対応について十分に協議する必要があります。

利用施設において除去食・代替食の対応が可能な場合でも、安易な対応が原因で事故が起ることのないよう、事前に必ず打合せを行うようにします。打合せは、学校・保護者・利用施設の関係者（旅行会社に委託している場合は添乗員も含む）などが直接行うことが望ましいです。

考えられる対応（例）

行事内容	考えられる対応
利用施設	施設付近の医療機関に協力依頼をする。
飛行機	エピペンを機内に持ち込む場合、予約時に旅行会社や航空会社に協力を依頼する。
キャンプファイヤー 飯ごう炊さん	直接煙を吸わないように、距離をとったり、マスクを着用したりするようにする。
食事	献立や食品成分表を保護者とともに確認する。 弁当や食事、おやつの交換は行わない。
運動	食後の激しい運動は避ける。
睡眠	布団や枕などからなるべくホコリが出ないように静かに過ごす。 ソバ殻の枕が使用されている場合、ソバ殻以外の枕と交換が可能かどうか事前に確認する。交換できなければ、施設の変更を検討する。

10 その他

ハチや医薬品、天然ゴム（ラテックス）などのアレルギーがある場合、これらが原因でアナフィラキシーを発症することもあるため、配慮するようにします。

また、ぜん息発作を引き起こしやすい環境もあるため、以下の環境についても配慮が必要になります。

ぜん息発作を引き起こしやすい環境（例）

ぜん息発作を 引き起こしやすい 環境	マット・跳び箱、カーペット敷きの部屋、保健室のベッド
	チョークを使用する部屋
	エアコンの吹き出し口
	運動場の土ぼこり

ここでは一部の留意点のみあげています。学校には多種多様な環境があります。学校で求められる配慮・管理を整理したうえで、アレルギー疾患を有する児童生徒への対応を行うようにしましょう。